



キックオフミーティングを開催しました (H23.12.16)

奈良県立医科大学は文部科学省の平成 23 年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受け、女性研究者支援センター「まほろば」を中心に、女性研究者に対する様々な支援活動を本格的に始動しています。平成 23 年 12 月 16 日(金)にはお 2 人の先生をお招きして、キックオフミーティングを開催しました。

吉岡章学長挨拶の後、多田 敏子先生（徳島大学大学院保健科学教育部長）より「仕事を通じた出会いと学び」と題し、ご講演をいただきました。



多田先生ご自身が学生時代の実習から現在までに経験された印象的な出来事を交え、「仕事があるからこそ得られる出会いがあり、またその体験を次の世代へ継続していくことが重要である。」と女性にとって仕事を続けていくことの大切さをお話しいただきました。

引き続き、桃井 眞里子先生（自治医科大学医学部長）より「女性研究者・医師育成のあるべき方向性」と題し講演をいただきました。

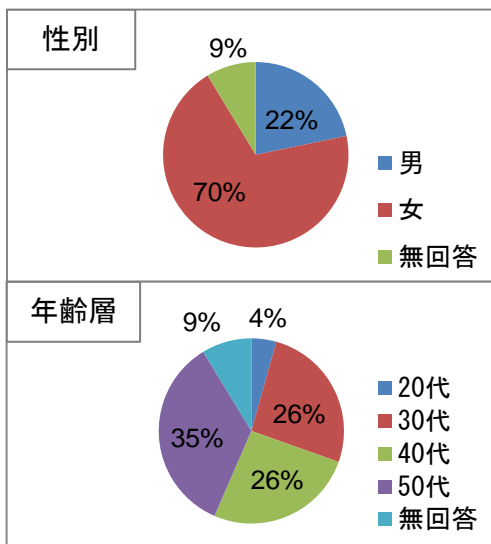


桃井先生からは、男女共同参画社会について諸外国と比較した各種データを用い日本の現状をわかりやすく説明いただき、女性が職業人生を築くために今後日本では「男女共の意識改革、育児・家事への社会インフラ整備が必要である。」とのお話をいただきました。

会場からの質問も活発で関心の高さがうかがえる講演となりました。

講演後アンケートでは、一人一人違った要望に応えるフレキシブルな支援を望む声や、介護支援についてもっと知りたいといったご意見をいただきました。講演後の交流会にも多くの方にご参加いただき、今後の女性研究者支援活動にとって有意義なミーティングとなりました。

《参加者アンケート集計結果》

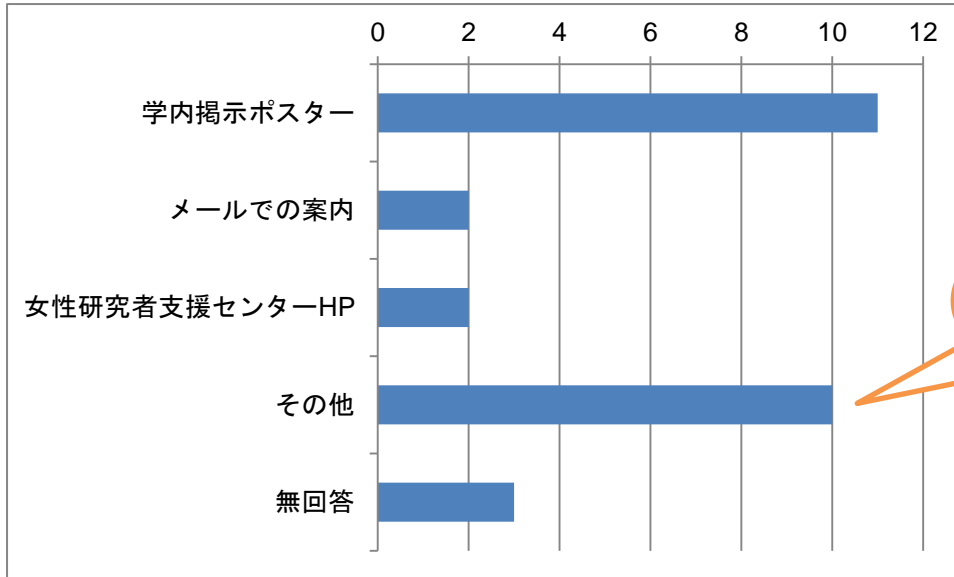


Q. 今後こういった内容の講演を望まれますか？

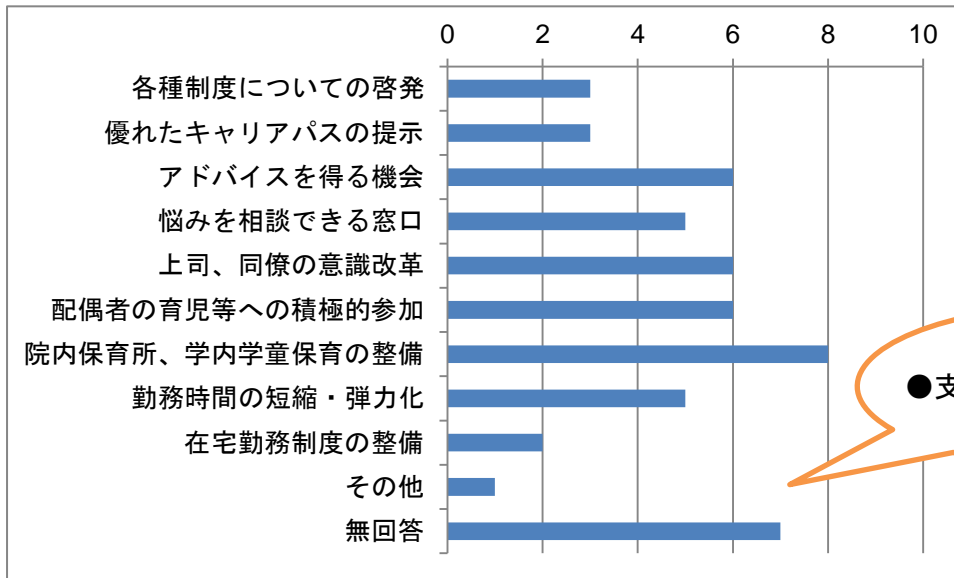
- 仕事をしながらどうやって介護をするか
- 多様なロールモデルの紹介、男性側からの提案
- 女性研究者による学術講演



Q. 今回のキックオフミーティングを何で知りましたか。



Q. 女性研究者が育児や介護と仕事を両立させてキャリアを継続するために有効と思われる取り組みを、下記の項目の中から選んでください。



Q. 男女共同参画社会を推進する方策の一つとして「男性が育児休業を取得すること」が推奨されています。このことについて、あなたの考えに近いものを選んでください。

